

菜のむらび  
完

中村俊定文庫  
文庫 18  
950





葉のねむ

佐世野文庫















1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.

1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10. 11. 12. 13. 14. 15. 16. 17. 18. 19. 20. 21. 22. 23. 24. 25. 26. 27. 28. 29. 30. 31. 32. 33. 34. 35. 36. 37. 38. 39. 40. 41. 42. 43. 44. 45. 46. 47. 48. 49. 50. 51. 52. 53. 54. 55. 56. 57. 58. 59. 60. 61. 62. 63. 64. 65. 66. 67. 68. 69. 70. 71. 72. 73. 74. 75. 76. 77. 78. 79. 80. 81. 82. 83. 84. 85. 86. 87. 88. 89. 90. 91. 92. 93. 94. 95. 96. 97. 98. 99. 100.







一 此の紙牌はあまのり  
 子にさしあめりて家  
 本徳にあらはれり  
 寛正一 御おな  
 文 廿書



文 廿書  
 寛正一 御おな  
 本徳にあらはれり  
 子にさしあめりて家  
 一 此の紙牌はあまのり



力さるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか  
はるるにんか

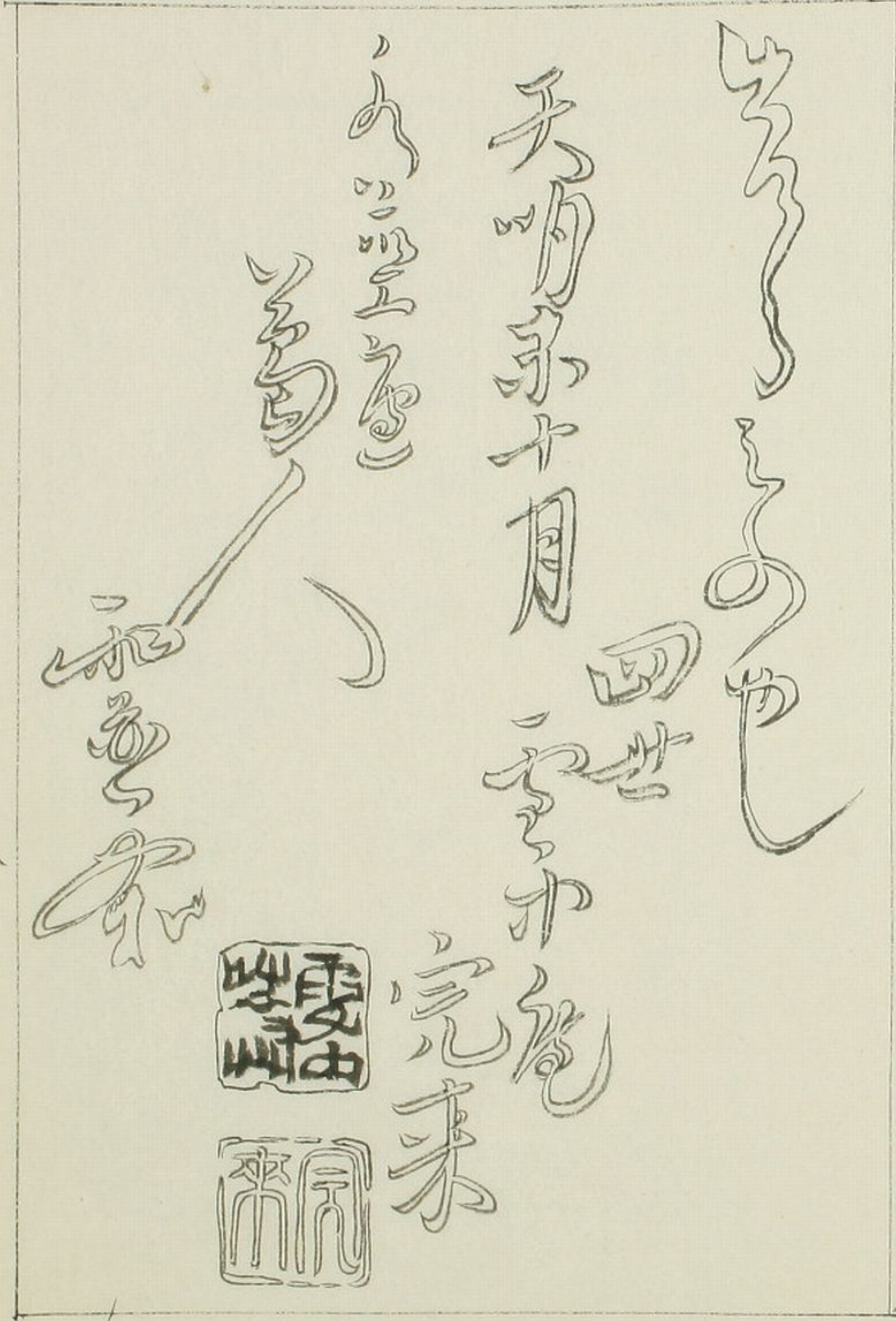
あまのり

天明末十月

あまのり

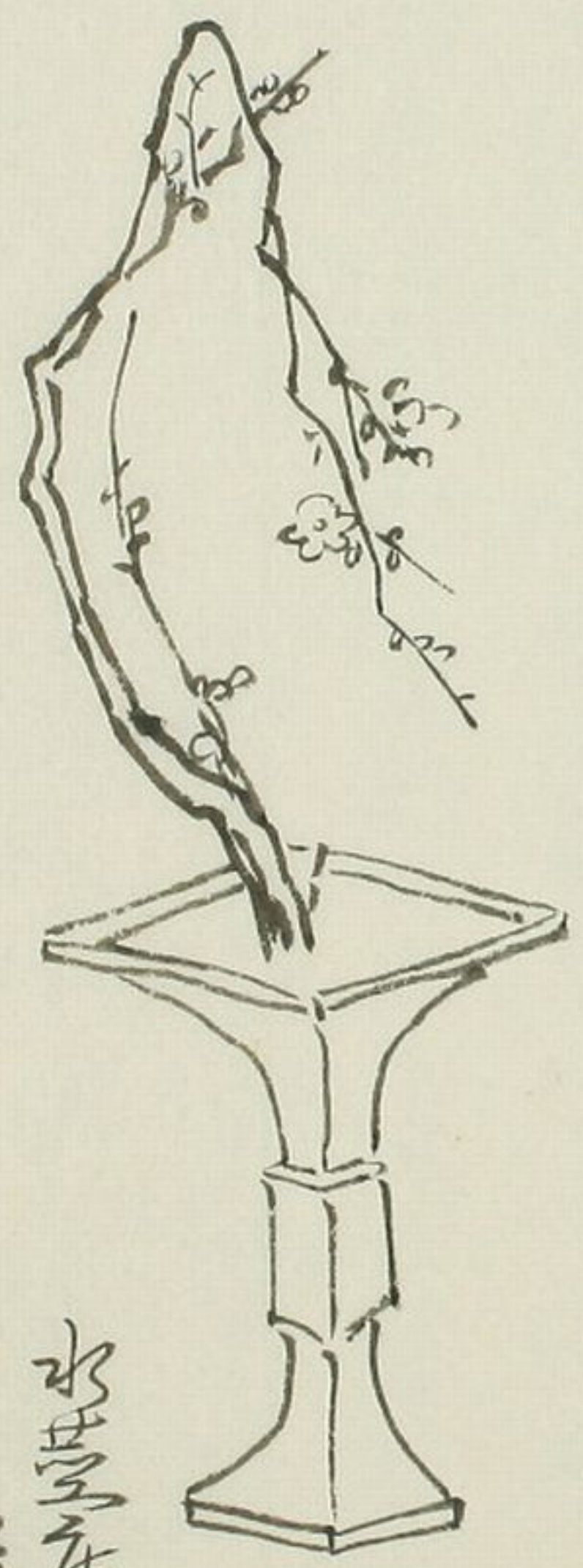
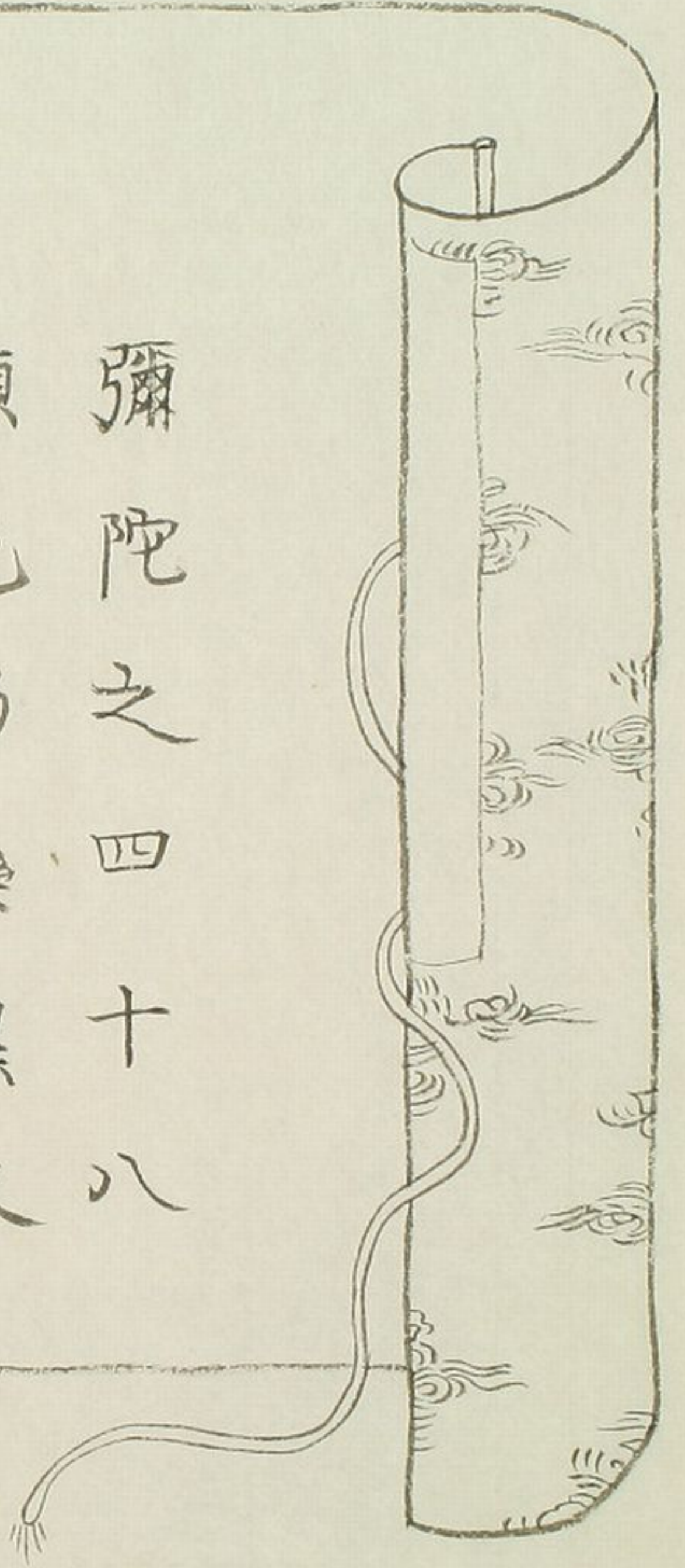


あまのり





彌陀之四十八  
願尼乃樂異天  
哥儒乎讚陀無

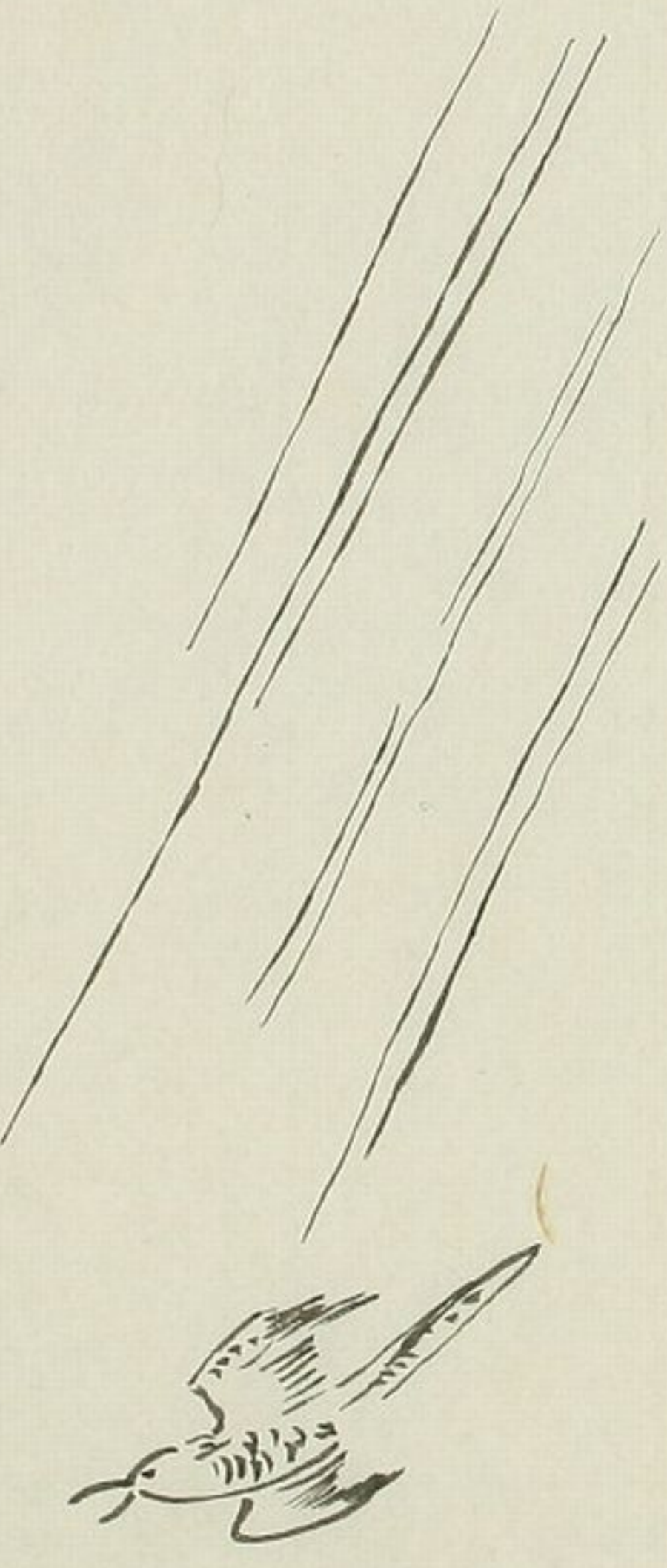


水雲度  
着人

書の〜水雲度〜  
 鳥の〜水雲度〜  
 鳥の〜水雲度〜  
 鳥の〜水雲度〜



白魚也 鰯投松の海の中  
鳥の巢を 雀の巣を 雀の巣を  
鼻を 魚の尾を 魚の尾を  
雀の巣を 雀の巣を 雀の巣を  
之を 之を 之を  
他人の 他人の 他人の  
ちや ちや ちや  
之を 之を 之を



雀の巣を 雀の巣を 雀の巣を  
雀の巣を 雀の巣を 雀の巣を  
雀の巣を 雀の巣を 雀の巣を  
雀の巣を 雀の巣を 雀の巣を



けしきしつらぬあなりのゝ花  
 ちりばめやよの母のこぼれ波  
 しのぶのくさむらさき月  
 曇る人さへもさへ花を  
 静しと雨の中かゝる花  
 しのぶの夜と満月  
 有るよの雨の側  
 人さへも老のちりばめ



初婚の三社とて死に  
 七名に集まれば  
 朔月の乾あはれ  
 魂柳やさうぢり



確々如きあゝぬ月あとなりは  
 雲のや四入丁宿のよみ枕  
 考と〜の人を身とて角鯨引  
 名月と都をぬる水の色  
 い〜み人見残〜は月  
 床のあふ年の奥もあめを  
 下〜のい〜昔あ〜の門  
 小舟門のぬ〜を〜を〜



山遠〜銀雪ひの〜時雨たり  
 揚馬のまあ〜ぬ〜あまらな  
 三〜あ〜耳〜あ〜あ牡丹  
 酔〜あ〜あ〜あ〜あ







三筆に八院按察の遠きり  
 洛子  
 七城はくさる音響よか  
 青橋  
 三階のさる節のほの前川よ  
 雅六  
 おもむも流しぬ室に賜れ  
 滝磨  
 思ひあやけぬ我のひのこもあや  
 百尺  
 其をよと羨りよあはぬのあや  
 麗堂  
 片ら終のたか河内へ有るあや  
 其廬  
 さるぬ母律の河原坐初る  
 南

の供の鞠と千原のあや  
 子  
 舟もひをさるあやの繪島  
 雁  
 本巻のさる節のあやの車  
 尾  
 新都のさるれが白鶴  
 母  
 活筆通のあやのさるあや  
 橋  
 すさるあやのあやのあや  
 鳩  
 舟もあやのあやのあやの場  
 堂  
 御とあやのあやのあや  
 尺



長刀のめしはあきまふ巴流  
 又の葉のめしはあきまふ使者  
 あねのめしはあきまふ此  
 い川狼籍の肉桂也裂  
 ちか合と皆唐の千里丸  
 斜陽のめしはあきまふ井  
 遠る家布瓜の水も取あ減  
 松の垣をるの三橋もむ秋  
 鷹 六 南 尾 子 雁 尺 樓

馬のめしはあきまふ誰か人  
 りはあきまふあきまふの強  
 羽帯の羽はあきまふ紫棚  
 羽のめしはあきまふ鳥のめし  
 水はあきまふ園のめしはあきまふ  
 まはあきまふ法の音楽  
 鷹 六 雀 橋 筆







陽春の象と彫の鶴も成猶子 鶉樓

林檎のもねてはるりの雪

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち東都 庭和

あつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち全

あつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち全 樓梅

春旭庭

あつちのあつちのあつちのあつち全 鶉善

あつちのあつちのあつちのあつち全 鶉善

あつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち全 未白

あつちのあつちのあつちのあつち全 泰卿

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち

あつちのあつちのあつちのあつち全 礎六



暮人子於我俳道聞  
于世本秋羅疾卒如  
斥法然而癡句吊詩  
聊以代他日做道之

語云

高 漸 未 絃 不 耐 惜  
山 流 水 自 無 聲  
春 來 唯 有 花 間 鳥  
空 近 莖 序 莖 上 鳴

玉潤林曳尾州

あつたあつたあつた

投人のあつたあつたあつた 東女  
雨のあつたあつたあつた 甚娘  
あつたあつたあつたあつた 三つ子  
あつたあつたあつたあつた 滝磨  
あつたあつたあつたあつた 雅六  
人のあつたあつたあつたあつた 百尺



人志了夜も山一の心も  
余心も深き悲しみの夢  
種老し只の世の窮多し  
都雁

卒賦一律追悼我友

葛人子

其真如蘭處 浮世不可群  
人間還俳道 地下作終文  
愁為招鬼甚 淚將結契紛

同袍多遺愛 相吊孰思君

此其改名  
萊布谷州



昔やさくはのち影ゆふ外 居逸  
知と唯淋し 非此の夢も  
とれしを推し寄る中色 起石  
昔やさくはのち影ゆふ外 月承



巴明  
 笑山  
 古篤  
 文郎  
 周我  
 洞中  
 耳鳴

葵來  
 龜六  
 桂花  
 旅

○  
 西心宛  
 左東



Handwritten musical notation on the right page, consisting of several lines of rhythmic patterns and notes.

結句 拾泉

Handwritten musical notation on the left page, consisting of several lines of rhythmic patterns and notes.

桃壘







御湯しーあそくを疎野の  
 十哲と母梅とてく書人  
 ちりー鶴命あむしー  
 そのふま顔子しー仙の好屋 完本  
 くらあめさりーあそく九月外 白麻  
 此ー瑞や解し入海の雪 青橋  
 あー松ー根さるあそくの端記 雪王万

月雅あれを澤ちあり

ありあそく

ありあそく

ありあそく

文母







かゝるものかゝるもの  
しるものかゝるもの  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ  
あゝあゝあゝあゝあゝあゝ

駿陽  
渡邊伊逸

大正之五二月盡深川の寓居子  
松之字一丁の原本は縦七丁四  
分横五寸の板なり

松林源書屋

終紅識

逸字手紙上

丙戌十二月

終紅





